

イエスの祈りについての教え

自分を正しい人だと信じ、他の人をさげすむある人に対して、イエスは、次のたとえ話を語られた。「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人であった。ファリサイ派の人は胸を張って立ち、心の中でこう祈った。『神よ、わたしはほかの人たちのように、強奪者や不正直な者や姦通の罪を犯す者でもなく、また、この徴税人のような者でもないことを、あなたに感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を納めています』と。ところが、徴税人は、遠くに立って目を天にあげようともせず、胸を打ちながら、『神よ、罪びとであるわたくしをあわれんでください』と言っていた。あなたがたに言うておく、正しいとされて家に帰ったのは徴税人であって、ファリサイ派の人ではない」。 (ルカ 18・9-14)

あなたがたは祈るとき、異邦人のようにくどくどと言ってはならない。彼らは言葉数さえ多ければ、聞き入れられると思っている。彼らのまねをしてはならない。あなたがたの父は、あなたがたが願うまえに、その必要とされるものを知っておられるからである。 (マタイ 6・7~8)

だから、あなたがたは、「何を食べようか」、「何を飲もうか」、「何を着ようか」と思い煩ってはならない。これらはすべて、異邦人がせつに求めるものである。あなたがたの天のち父は、これらのものが皆、必要であることを知っておられる。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことを思い煩うな。明日のことは明日自らが思い煩う。その日の労苦は、その日だけで十分である。 (マタイ 6・31~34)

求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。捜しなさい。そうすれば、見つけるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。だれでも求める者は受け、捜す者は見つけ、たたく者は開けてもらえるのである。あなたがたのうちで、自分の子どもがパンを求めているのに、石を与える者がいるであろうか。また、魚を求めているのに、へびを与える者がいるであろうか。あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちに良い物を与えることを知っている。まして、天におられるあなたがたの父が、自分に求める者に良い物をくださらないことがあるだろうか。(マタイ 7・7~11)